平成２６年度公益社団法人瀬戸内海環境保全協会事業報告書

今年度事業推進上の基本方針

「瀬戸内海環境保全協会」の設立趣意を踏まえつつ、次の方針のもと事業を展開する。

「瀬戸内海の環境保全･創造」に関する活動拠点、瀬戸内海の各種対策のコーディネータとして、

(1)瀬戸内海の環境活動、環境学習に関する指導者のネットワーク構築、教材等作成提供

(2)瀬戸内海の栄養塩類や生物多様性等新たな課題に対する調査研究

(3)瀬戸内海に関する各種情報、データの収集・発信

の中心的な役割を目指して事業を進めることとする。

また、事業実施にあたっては、瀬戸内海に関係する府県市、漁業団体、環境衛生団体の緊密な連携のもと、新たな水環境の考え方の一つである「（森・川・海の）流域管理」や「里海」をキーワードとしながら、環境省や瀬戸内海環境保全知事・市長会議、瀬戸内海研究会議との連携をさらに密にし、豊かで美しい瀬戸内海を後世に継承していくための事業展開を図っていく。

Ⅰ　事業

１．瀬戸内海の環境保全・創造に関する普及啓発、活動支援及び情報収集・提供

(1)普及啓発・活動支援

①瀬戸内海環境保全月間事業の展開(昭和52年度～)　　[1,538千円]

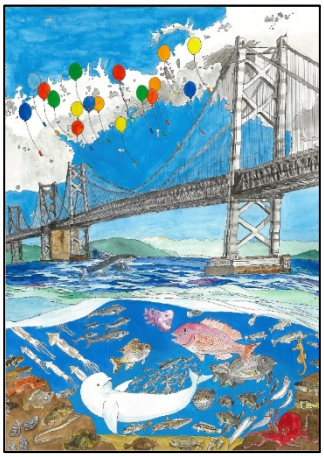
瀬戸内海の環境保全意識の高揚を図るため、次の事業を実施した。

ア、平成26年度瀬戸内海環境保全月間（期間：平成26年6月1日～30日）ポスターの配布・掲示

平成25年度に公募し、選定された最優秀作品を平成26年度瀬戸内海環境保全月間ポスターとして作成、関係機関に配布し、瀬戸内海環境保全月間に広く掲示した。

・配布枚数：5,000枚

〔平成26年度瀬戸内海環境保全月間ポスター最優秀作品・優秀作品〕



最優秀賞　駒谷遥也（中学生）
（大阪府大阪市）

優秀賞　前田遥紀（小学生）
（徳島県吉野川市）

優秀賞　中村　稔
（佐賀県三養基郡）

イ、瀬戸内海環境保全月間ポスター原画展の実施（平成22年度～）

瀬戸内海環境保全知事・市長会議総会・瀬戸内海環境保全セミナーに合わせて、協会が保有している瀬戸内海環境保全月間ポスター入選作品の原画を展示し、環境保全の啓発を図った。

・日時：平成26年7月31日（木）

・場所：大阪府庁咲洲ホール

瀬戸内海環境保全セミナー

瀬戸内海環境保全月間ポスター原画展

ウ、平成27年度瀬戸内海環境保全月間ポスター募集・選定（平成11年度～）

平成27年度瀬戸内海環境保全月間に向け、環境省と共催で、ポスターの原画を募集し、入選作品を選定した。

・作品募集期間：平成26年7月10日（木）～12月1日（月）

・ポスター選定委員会の開催：平成27年2月18日（水）

・ポスター応募数：一般部門　91件　子供部門　158件　総数　249件

②瀬戸内海環境保全への支援　　[4,485千円]

ア、「里海づくり」支援事業の展開（平成23年度～）

地域住民等に対する瀬戸内海の環境保全意識の啓発、理解及び活動参加の推進を図るため、会員府県市が実施する人と自然が共生する「里海づくり」に係る環境学習事業や環境ボランティア人材育成事業に対し、資材（水生生物下敷、水質パックテスト等）を提供し支援を行った。

支援対象事業　・自然観察会や子どもたちを対象とした体験的学習

・環境ボランティアの人材育成事業

支援府県市：13府県17市

事業実施期間：平成26年7月1日（火）～平成27年1月31日（土）

大阪府「海の教室」

岡山市「足守水辺教室」

イ、環境保全事業への支援（昭和52年度～）

環境衛生団体や漁業団体が取り組んでいる浜辺の清掃や環境美化等、各種環境保全・創造活動事業に対し、その活動費用の一部を助成した。

助成団体数：７環境衛生団体、８漁業団体

事業実施期間　平成26年6月１日（日）～平成27年3月31日（火）

ウ、「瀬戸内オリーブ基金」による瀬戸内海地域の緑化の推進（平成24年度～）

有害産業廃棄物の不法投棄事件「豊島事件」をきっかけに、建築家安藤忠雄氏と、豊島事件弁護団長の中坊公平氏らが呼びかけ、植樹等の緑化活動により、瀬戸内海の自然環境を保全していくことを目的とした「瀬戸内オリーブ基金」を活用し、正会員が瀬戸内海周辺一帯及び流域で行う植樹・育苗等の自然再生、地域再生にかかる緑化事業に協力した。

・平成 26 年度交付決定：６府県、１漁業団体　交付額　15,139,491 円

・平成 27 年度交付決定：２府県、１漁業団体　交付額　 2,407,000 円（＊保留１件）

③環境保全研修の実施　　**[7,314千円]**

ア、瀬戸内海環境保全トレーニングプログラム研修の実施（平成10年度～）

団塊の世代の退職に伴い、環境技術の継承が求められており、新たに水環境保全業務に従事する職員を対象に、瀬戸内法や排水処理技術、瀬戸内海の新たな取り組みについて、研修を行った。

・日時：平成26年9月8日（月）～10日（水）

・場所：中津市　グランプラザ中津ホテル

・参加人数：29名（９府県17市２団体）

・講義：瀬戸内海の環境保全の歩みと再生方策

講師　広島大学　名誉教授　松田　治

瀬戸内海の環境保全の動向－瀬戸内海環境保全特別措置法を中心として－

講師　環境省水・大気環境局閉鎖性海域対策室　室長補佐　石川拓哉

貧栄養化と貧酸素－水と泥のつながり

講師　広島大学大学院　教授　山本民次

藻場・干潟が海域環境に果たす役割

講師　香川大学瀬戸内圏研究センター　准教授　一見和彦

排水処理技術の概要

講師　（公財）国際エメックスセンター　主任研究員　梅本　諭

大分県における環境への取り組みについて

講師　大分県生活環境部環境保全課　参事　御沓稔弘

・現地研修

瀬戸内海最大の中津干潟について

講師　ＮＰＯ水辺に遊ぶ会　理事長　足利由紀子

・班別討議及び全体討議

カブトガニの幼生

全体討議

現地研修　中津干潟

イ、瀬戸内海の環境保全に関する各団体合同研修会の開催（昭和53年度～）

当協会設立の原動力の一つである環境衛生団体と連携を継続・維持していくため、同団体の合同研修会を共同で開催した。

・主催：瀬戸内海環境保全地区組織会議、（公社）瀬戸内海環境保全協会

・後援：愛媛県、今治市

・日時：平成26年11月12日（水）～13日（木）

・場所：今治市　ホテルアジュール汐の丸

・参加人数：48名

・活動紹介：愛媛県の取り組み

「みんなで守ろう　今出ケ浜と希少生物」

今出ケ浜潮騒を守る会

「環境への取り組みについて」

愛媛県漁業協同組合連合会

・体験交流・意見交流：各府県市連合会の実践活動報告

1)『伝統行事の継続』と『海や河川の環境保全』の両立を目指して

－精霊流し行事における市民と行政の協働－

兵庫県　明石市保健衛生推進協議会

2)環境啓発活動の取り組み

広島県　海田町公衆衛生推進協議会

3)瀬戸内海環境保全活動－河川に関わる活動を通して－

北九州市　八幡東区衛生協会連合会

4)瀬戸内海環境保全特別措置法の改正への取り組み

（公社）瀬戸内海環境保全協会

・施設見学：(株)ダスキンプロダクト中四国　愛媛工場、大山祇神社

近光　章議長（瀬戸内海環境保全地区組織会議）挨拶

施設見学　(株)ダスキンプロダクト中四国

ウ、瀬戸内海の環境保全に関する賛助会員等研修会の開催（平成６年度～）

当協会の賛助会員であり、ともに瀬戸内海の環境保全に取り組んでいる企業間のネットワークづくりの場として、企業ニーズを踏まえながら研修会を実施した。

研修内容は、前回の研修会参加者へのアンケート結果を踏まえ、賛助会員部会で検討を行い、テーマを決定した。

1）第１回研修会

テーマ：各企業の環境への取り組み

・日時：平成26年10月16日（火）

・参加人数：76名（うち自治体より1府9市参加）

・講義・見学：㈱神戸製鋼所　加古川製鉄所（兵庫県加古川市）

製鉄所の環境への取り組み、冷延排水処理設備の見学、圧延工場の見学

川崎重工業㈱　明石工場（兵庫県明石市）

工場の環境への取り組み、エネルギーセンター（ガスタービン発電施設）の見学

2）第２回研修会（座学）

テーマ：瀬戸内海における今後の環境保全・創造の方向性について

・日時：平成27年2月10日（火）

・場所：パレス神戸

・参加人数：103名（うち自治体より２府４県８市参加）

・講義：瀬戸内海環境保全基本計画の変更等について

講師　環境省水・大気環境局閉鎖性海域対策室　室長補佐　石川拓哉
瀬戸内海の環境改善に向けた兵庫県の取り組みについて
～豊かで美しい海の実現をめざして～
講師　兵庫県農政環境部水大気課　課長　春名克彦
瀬戸内海の海域環境の現状と改善方法について
～海の豊かさを実感できるように～
講師　京都大学名誉教授　藤原建紀

第１回研修会
㈱神戸製鋼所　加古川工場

第２回研修会
パレス神戸

④環境保全事業への参加・協力　　[2,182千円]

ア、環境イベントへの参加・協力

他団体が主催する環境イベントにおいてパネル（里海・瀬戸内海フォトコンテスト入選作品等）の展示、資料配布、スナメリのマスコットイラスト「ほのぼのん」を活用した、クリアケース等の配布を行い、瀬戸内海の環境保全の普及・広報に努めた。

配布数：クリアケース　350枚
広島県、福山市の環境イベントで配布

イ、会員等主催事業への支援

会員及び関係機関が主催する各種環境保全事業へのパネルの貸出などの支援を行った。

貸出実績：兵庫県　ひょうご環境体験館　平成26年11月9日～平成27年2月13日
大阪府　フィッシングショーOSAKA2015　平成27年2月6日～2月8日

ウ、環境ＮＧＯ・ＮＰＯとの連携・支援

瀬戸内海の環境保全等に努める環境ＮＧＯ・ＮＰＯとの連携や支援を行った。

・シンポジウム「豊かな瀬戸内海の再生」（平成26年9月1日（月））の開催について協力を行い、瀬戸内海環境保全月間ポスター原画等の展示を行った。

講　演

ポスター原画展示

⑤ＫＪＢ瀬戸内基金の管理・運営（平成19年度～）　［6,039千円］

瀬戸内海の環境保全等に取り組む環境ＮＧＯ・ＮＰＯを支援するため、フィリップ モリス ジャパン株式会社が提唱する「keep Japan beautiful～日本をエコひいきしよう～」の一環として、瀬戸内海地域における環境美化・保全活動に取り組む市民団体の活動や事業の助成・支援を行うため設立した「ＫＪＢ（keep Japan beautiful）瀬戸内基金」の管理・運営業務を行った。

・平成26年度ＫＪＢ瀬戸内基金助成
　募集期間：平成26年1月21日（火）～2月21日（金）
　応募総数：53団体
　採択総数：21団体　助成総額：4,260千円

・平成27年度ＫＪＢ瀬戸内基金助成
　募集期間：平成27年2月10日（火）～3月6日（金）
　応募総数：44団体
　採択総数：21団体　助成総額：3,950千円

⑥海文化事業の推進（平成24年度～）　［3,402千円］

瀬戸内海がもつ自然や歴史、食文化等多様な地域資源を背景に、瀬戸内海で結ばれている地域住民の生活・文化の交流を通じて、環境保全への一層の意識醸成を図り、「豊かで美しい瀬戸内海」を実現するため、海文化委員会を開催し鷲尾圭司（水産大学校理事長）など有識者の意見を聞きながら検討をすすめている。

平成26年度は、平成24、25年度に作成した瀬戸内海の水環境の変遷と湾・灘ごとの海文化（食文化、伝統行事等）を各府県市に内容の確認等を行い、食文化をとりまとめた。

今後は、とりまとめ結果の冊子化、協会のＨＰなどを活用した広報を行う。

草戸千軒遺跡（復元）

中予・東予地方の「鯛めし」

⑦瀬戸内海環境保全に関する関係府県市・団体との連携　　[2,309千円]

ア、瀬戸内海再生に向けた取組みの推進

瀬戸内海の生物多様性の確保、水産資源の回復、美しい自然とふれあう機会の提供等、豊かで美しい瀬戸内海を取り戻すための施策が総合的、計画的に推進されるよう、瀬戸内海環境保全知事・市長会議等と連携して、種々の取組みを進めた。

＊瀬戸内海関係漁連・漁協連絡会議が進める瀬戸内海再生法検討への参加・協力

第１回ワーキングチーム会議　平成26年4月7日（月）

第１回会長会議　平成26年7月29日（火）

イ、国に対する提案(昭和52年度～)

栄養塩の適正管理や藻場、干潟の保全等、単独の府県だけでは取り組めない瀬戸内海の広域的な課題の解決に向けた調査・研究に取り組むため、国に提案を行った。

・提案日：平成26年7月18日（金）～7月31日（木）

・提案先：環境省(26人)、水産庁(12人)、財務省(14人)、国土交通省(25人)　計77人

（提案事項）

・施策の推進

(1)瀬戸内海の環境保全・再生・創出のための普及活動、環境教育・環境学習事業及び参加型環境保全活動事業並びに新たな視点での水環境を基調とした海文化を通じた環境啓発事業の推進

(2)瀬戸内海の環境データの収集とデータベース機能の充実
（特に生物、藻場、干潟等の自然環境情報）

(3)漁業が持続可能な豊かな海づくりのための適切な栄養塩濃度レベルの維持及び円滑な物質循環の確保に向けた湾・灘ごと等のきめ細やかな水質管理の推進

(4)底質並びに湾奥部の環境改善の推進

(5)藻場、干潟及び浅場の保全・再生・創出の推進

(6)赤潮発生メカニズムの解明と防止対策の推進

(7)海ごみの処理対策の推進

(8)水質浄化に寄与する二枚貝等を捕食する有害生物対策の推進

・調査研究

(9)瀬戸内海の沿岸域での良好な環境の保全、失われた環境の修復・創造に関する調査研究
(10)生物多様性の確保及び水産資源の回復、美しい自然とふれあう機会の提供等瀬戸内海を里海として再生するための調査研究
(11)瀬戸内海における栄養塩類の適正な管理や藻場・干潟が水環境に及ぼす役割の解明など、物質循環の健全化を通じた良好な水環境の実現に向けた調査研究
(12)瀬戸内海の自然環境及び水環境保全並びに浮遊・漂着・海底ごみ等に関する調査研究
(13)瀬戸内海における有害化学物質等による環境影響に関する調査研究
(14)瀬戸内海における外海からの環境影響に関する調査研究
(15)気候変動（海水温上昇等）に伴う生態系や水産業に与える影響の調査研究
(16)外来種侵入に伴う生物多様性や水産業等に与える影響の調査研究
(17)栄養塩類や土砂の供給にかかる河川・森林機能に関する調査研究
(18)瀬戸内海環境情報基本調査の継続実施
(19)瀬戸内海の自然景観と文化的景観の保全と再生に向けた取り組み（自然、文化、歴史等の既存の情報収集とその広報活動を含む）
(20)地域で活動している NPO 団体との連携による地域づくり活動の実施体制の構築（指導者やボランティアの育成）
(21)瀬戸内海研究会議の調査研究及び教育活動に対する支援

ウ、賛助会員の加入促進

協会の目的に賛同する企業等の賛助会員加入の促進を図るため、研修会の充実やセミナー等での広報に努めた。

エ、瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議（平成25年4月1日設立）の事務局を担うとともに、研究会議が行う事業の運営推進について支援・協力を行った。

・瀬戸内海研究フォーラムin和歌山（平成26年8月28～29日（木～金））への後援、開催協力
・瀬戸内海の環境保全・創造研究ワークショップ（平成26年12月8日（月））への後援、開催協力

オ、国際的な活動への協力

（公財）国際エメックスセンターが行う国際的な行事について、協力を行った。

・エメックス国際セミナー「沿岸域管理政策のレビューとエメックスのこれから」（平成26年8月12日（火））への後援

(2)情報共有・発信事業

瀬戸内海の環境保全にかかる現状や、瀬戸内海のあり方、行政施策に関する情報を収集し、今後の施策や事業の連携、協調を図るため、府県市、漁業団体、環境衛生団体等の会員をはじめ、関係する市民等に広く情報を発信し共有した。

①総合誌「瀬戸内海」の発行・配布（平成６年度～）　[5,895千円]

瀬戸内海の自然・社会・人文科学の総合誌「瀬戸内海」を発行・配布するとともに協会ホ

ームページに掲載した。

・発行回数：年２回

第68号：平成26年9月発行　　1,000部、CD-ROM

特集　瀬戸内海国立公園指定80周年

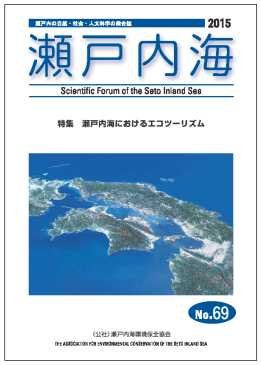
第69号：平成27年3月発行　　1,000部、CD-ROM

特集　瀬戸内海におけるエコツーリズム

・無償配布：会員団体（冊子及びCD-ROM）

・有償配布：年間購読者等（冊子のみ）　年間購読料　2,500円（税込み）

「瀬戸内海」第68号



「瀬戸内海」第69号

②資料集「瀬戸内海の環境保全－平成26年度版－」の発行・配布（昭和53年度～）　　[4,741千円]

瀬戸内海に関連する各種資料をとりまとめ、資料集「瀬戸内海の環境保全－平成26年度版－」として発行・配布した。

平成27年3月発行　冊子 750部、CD-ROM 140枚

・無償配布：会員団体（冊子及びCD-ROM）

・有償配布：会員以外（冊子のみ）

③協会ホームページによる情報の発信（平成10年度～）　　[2,519千円]

瀬戸内海の環境保全に関する環境学習情報等を広く一般の方も容易に入手できるとともに、環境保全に取り組むＮＰＯのネットワーク化にも役立つよう情報を発信した。

情報をよりわかりやすく、活用しやすくするため、ホームページのリニューアルを行った。（平成27年2月）

④メールマガジンによる情報の発信（平成23年度～）

会員府県市、漁業団体、環境衛生団体及び協会が有するトピックスを収集し、情報共有や施策立案等だけでなく、会員を通じた普及啓発に資する情報発信を毎月１回（15日）行った。

２．瀬戸内海の環境保全・創造に関する調査・研究事業

(1)調査・研究事業　　[1,959千円]

豊かで美しい瀬戸内海実現に資する調査・研究事業について、環境省等からの受託など外部

資金の獲得を目指し活動を行った。また、次の事業を受託し実施した。

①持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発

（公財）国際エメックスセンターが環境省から受託している「持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発」事業について、支援した。

Ⅱ　一般事項

１．会議等の開催

(1) 総会

①定時総会（平成26年5月27日（火）　ラッセホール）

・平成25年度事業報告及び決算
・会費の額
・常務理事の報酬
・国に対する提案
・役員の補欠選任
・平成26年度事業計画及び収支予算

(2) 理事会

総会付議事項及び業務の執行に関する事項を協議する。

①第３回理事会（平成26年5月13日（火）　神戸市勤労会館）

・正会員の入会承認（枚方市　平成26年4月1日より中核市）
・専門委員会委員の委嘱
・定時総会の招集
・定時総会付議事項

②第４回理事会（平成27年3月11日（水）　神戸市勤労会館）

・平成26年度収支予算の変更
・平成27年度事業計画及び収支予算
・職員給与規則の一部改正

(3) 専門委員会等

①企画委員会

財政調整積立資産の取り扱い、協会の事業推進のための検討及び平成27年度事業の検討・企画を行う。

第３回企画委員会（平成26年11月5日（水）　兵庫県民会館）

・平成26年度事業実施状況について
・財政調整積立資産の取り扱いについて
・今後の事業の検討について

第４回企画委員会（平成27年2月26日（木）　兵庫県民会館）

・平成26年度事業実施状況について
・平成27年度事業計画案及び収支予算案

②編集委員会

協会が発行する「瀬戸内海」の編集方針を定めるとともに、特集テーマや掲載内容及び執筆者等の検討を行った。

第１回編集委員会（平成26年6月26日（木）　兵庫県民会館）

・「瀬戸内海」68号の原稿収集について

・「瀬戸内海」69号の特集について

第２回編集委員会（平成26年10月30日（木）　兵庫県民会館）

・「瀬戸内海」69号の原稿収集について

・「瀬戸内海」69・70号の特集について

③海文化委員会

海文化事業の推進を図るため、情報の活用方策の検討を行った。

第１回海文化委員会（平成26年10月21日（火）　兵庫県民会館）

・海文化委員会における「海文化」の検討経緯について

・今後の「海文化」の検討項目について

④賛助会員部会

協会活動に対する賛助会員の積極的な参画と賛助会員に係る事業の検討・企画を行った。

第１回賛助会員部会（平成26年8月6日（水）　神戸市勤労会館）

・平成26年度事業等について

部会委員：関西電力㈱、川崎重工業㈱、㈱神戸製鋼所、マツダ㈱、四国電力㈱
いであ㈱、㈱大塚製薬工場、山口県瀬戸内海環境保全協会

(4)参事・事務局長並びに担当課長会議

会員に対する協会事業の理解と周知を図るとともに、事業活性化のため、会員相互の情報交換等を行った。

（平成27年3月13日（金）　ラッセホール）

・平成26年度事業実施状況及び収支補正予算

・平成27年度事業計画及び収支予算

・平成27年度国への提案事項案　等

２．専門委員の委嘱

企画委員、編集委員、海文化委員を委嘱した。

(1)企画委員（13名）

片山雅英	大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課長
春名克彦	兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長
山下俊之	広島県環境県民局環境保全課長
今雪良智	香川県環境森林部環境管理課長

江藤英二　　大分県生活環境部環境保全課長
清水　浩　　大阪市環境局環境管理部環境管理課土壌水質担当課長
北山静夫　　神戸市環境局環境創造部水・土壌環境担当課長
安好明男　　豊中市環境部環境政策室環境保全チーム長
寺西　一　　姫路市環境局環境政策室長
室重和彦　　山口県漁業協同組合総務指導部指導課長
瀬尾一雄　　愛媛県漁業協同組合連合会参事
内田靖人　　(一社)大阪ｴｲﾌﾎﾞﾗﾝﾀﾘｰﾈｯﾄﾜｰｸ事務局長
上田康二　　(一財)広島県環境保健協会地域活動支援センター長

(2) 編集委員（10名）

石川拓哉　　環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室室長補佐
今雪良智　　香川県環境森林部環境管理課長
住田典子　　(一財) 広島県環境保健協会地域支援課長
反田　實　　兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター技術参与
西田正憲　　奈良県立大学地域創造学部教授
春名克彦　　兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長（知事・市長会議事務局）
藤原建紀　　京都大学名誉教授
吉田　寿　　(株) 神戸製鋼所本社環境防災部課長
吉本竜人　　関西電力株式会社環境室環境技術グループチーフマネジャー
鷲尾圭司　　(独) 水産大学校理事長

(3)海文化委員（11名）

池田道治　　京都府文化環境部環境・エネルギー局環境管理課長
春名克彦　　兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長
栖原俊樹　　和歌山県環境生活部環境政策局環境管理課長
白髪輝夫　　岡山県環境文化部環境管理課長
山下俊之　　広島県環境県民局環境保全課長
今雪良智　　香川県環境森林部環境管理課長
松本　靖　　愛媛県県民環境部環境局環境政策課長
作花哲朗　　北九州市環境局環境監視部環境保全課長
佐藤泰弘　　兵庫県漁業協同組合連合会組織統括本部指導部統括
室重和彦　　山口県漁業協同組合総務指導部指導課長
上田康二　　(一財)広島県環境保健協会地域活動支援センター長